

市民談話室

原稿募集

10月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 (☎373-2111⑤333) です。



随分前から、一度行ってみたいと思っていた出湯温泉の「やまびこ通り」。願いがかなって、句友三人と、師の案内で出掛けました。

日ごろ何かと忙しく過ごしている私たちの目に、青葉若葉が染みとおるようにさわやかでした。出湯手前の国道を走り、矢印に沿って山道に入ります。上りに差しかかると、右に左に句

やまびこ通りを訪ねて
それぞれ思いを石に託して

小林キミイさん(諏訪木・無職・66歳)

碑が見えてきます。数の多い所に車を止めて句を觀賞しました。この「やまびこ通り」は笹神村が村おこしの一環として造成したものと聞きました。実は山道の状態を知らなかったものから、歩いて山を越えるのかと思ひ、つえなどを留意していたのでした。しかし、何と道幅も思ったより広く、きれいに整備されて、車の中から碑が見られるのです。

この場所に来るまでは人の大勢通る道に句碑を建てるなど、勇気と自信のいることと思ひておりましたが、上手下手は別として、大層金をかけた豊かな遊



島田

ごみ減量について
特に容器・包装材

因さん(大連南興快通環境づくり推進員)

ごみ処理といえば、これまでややもすると、出す人の側と処理する人の側に分かれてしまっていたようだ。行政が処理を一手に引き受け、市民・企業は排出したごみがどこでどうなっているか関知しない傾向にあった。しかし、最近のごみの急増、処理困難物の増加のため、行政の努力のみでごみを適正に処理することが難しくなってきた。

ごみ問題は本来、生産↓流通↓消費という物の流れの中で、それぞれの過程に携わる事業者、消費者が、社会全体の問題として受け止め、行政ともども取り組むべきものではないか。出されたごみを行政が迅速に衛生的に処理することはもちろん大切

である。けれどもさらに、ごみのことを広くみんなに知ってもらう、適正なごみの処理、その減量、あるいは資源化についてみんなが考え、みんなが対処していく社会をつくっていかないと、日本列島はごみでまみれてしまうことにもなりかねない。かつて、家庭のごみの代表といえは野菜や魚、肉などの調理くず(厨介)であった。今はプラスチックのトレー、プラスチックや紙の買い物袋、牛乳パック、菓子箱など、容器・包装材が主役である。その素材としてはプラスチックが非常に多く、次いで紙もよく目立つ。

容器・包装材減量のためには消費者たる市民と、生産・販売

び心と納得しました。「私たちも句作に苦しみごとくなく、気楽に続けよう」と語り合ったのです。心に留まる秀句も幾つかありました。楽しみに詠んだと思われるものもありました。俳句、川柳、短歌、讃と、人それぞれの思いを石に託して楽しんでたものと感じ取りました。

頂上には木目優しい手触りの展望台があり、蒲原平野が一望できました。少しかすんではいましたが、心洗われる思いに浸り、また下り坂の句碑を鑑賞しました。



有意義なひとときに感謝
文芸セミナーに参加して
荏原 ミウさん(上木山・農業・67歳)

文芸セミナーに案内をいただき、若月先生の「安吾への旅」と題したお話を拝聴いたしました。確実な資料とともに、知られざる安吾の生涯をかいま見ることができ、感極まるひとときでございました。

私は若いころの一時期、文学に魅せられ人様から借り受けた小説集や文集など、夜もすがら読みあさったものでした。しかし、昨今は白根市立図書館という立派な施設に恵まれながらも、身辺から遠のいた読書は、やはり年齢のせいと、感じておりま

帰り道に水原に出て瓢湖に寄りました。残留の白鳥が二十羽ほど湖に浮かんでおりました。湖の隣にはアヤマ祭り催されおり、何万株とも知れぬ色鮮やかなアヤマが咲き誇っておりました。いずれも句作につながることに、心楽しくひとときを過ごして参りました。

こんなにも素晴らしい一日をくださった先生に感謝し、これからも生涯の趣味として句作に励みたいと心に誓いながら帰途に着きました。

山青葉旧き恩師の句に出逢ふ

そうした中、今回のセミナーで机に向かって家庭を忘れ、農事を忘れてひたすら先生のお話に聞き入ることができました。私は思わず童心に帰った心地で、遠い昔が懐かしくよみがえり、とても貴重で有意義な時間を過ごさせていただきました。

また、終わってから記念写真を無償で郵送してください、図書館の皆様の温かいお心配りに、厚くお礼申し上げます。今後ぜひこのような催しが続くことを期待しております。

に携わる事業者との、双方の取り組みが不可欠である。簡素な包装、リサイクルできる容器が店頭に並んでも、消費者がこれを買わなければごみの減量にはつながらない。また、消費者が意識を持って買物をするようにも、最初から過剰な包装に包まれた商品しか選択できなければならずもならない。

次に容器・包装材のごみを減らす方法だが、これには、容器・包装材の使用量の削減と、その回収・リサイクルの取り組みが考えられる。それを受けて最近では適正包装の基準づくりに向けての国や関係業界の動きが活発

である。また、スーパーマーケットを中心に、プラスチックトレイや牛乳パック、空き缶を回収する例も見られる。

本市としても、ごみの減量について次のような対策に取り組んでいかなければならないだろう。まず広報・ポスターを通じて過剰な包装は断るよう市民に訴える。また、婦人団体等と共同で、容器・包装材に対する消費者意識調査や包装実態調査を行い、ごみ減量作戦を立てる。業界団体にもごみ減量を訴え、連携を密にしながら、容器・包装材の減量に努めなければならぬだろう。



親子で山登り
自然を満喫するひととき
上杉富美子さん(下茨・会社員・43歳)

私たち親子の山登りは五年間続いています。若葉菜る五月の連休の一日と、紅葉の秋の年二回。秋は十一月三日の日か、第一日曜日どちらか都合の良い日にしています。都合をつけて一緒に来てくれる高三の娘と二三の息子には感謝しています。

春は新緑を体中にいっぱい浴びて、秋は紅葉した木々の葉のじゅうたんを踏み締めながら、親子の会話が弾みます。

山登りで得たものは、自然の

素晴らしいものと知りません。素晴らしさと知らない者同士のあいさつを交わすことです。子供たちは最初は戸惑った様子でしたが、今では大きな声であいさつができるようになりました。山だけのあいさつではなくて、どこでもあいさつがきちんとできる子供たちに育ってほしいと願っています。

本当に自然は美しいものです。これからもずーっと子供たちと一緒に山登りができることを願っています。

市民文芸

俳句

湯女の言ふ刻にはたして登飛ぶ
五十嵐寛吾
日に灼けてもろくなりたる桃袋
成沢 素明
紫陽花のそれぞれの色得て咲ける
公條 雪夫
紫陽花に埋もれ紫陽花園の札
猪股 南魚
千姫といふ一株の花菖蒲
安沢 飛浪
居留守決め上段の間に昼寝かな
山田 孝
七夕の紙の銀河を飾りけり
樋口 トシ
さく／＼と音水中に真菰刈る
小林 すみ
七夕の青竹も売る小間物屋
知野信一郎
西瓜蔓追うて敷きわら足しにけり
吉川八重子
(以上大風全)

短歌

海行かば水行く屍と唄ひあは
凍土のこう野に果てし兄かも
小出熊四郎
ポツポツと聞き初めにし朝顔の
明朝待ちつつ蕃教へる
小出よしの
若くして逝く人のありこの村の

川柳

盆の全ては沈もれる中
中村 京
録研で神社の境内草取り終る
老人クラブ一同拍手を打つ
長谷川久二
晩年の余白を埋めて行くパズル
西条 ムラ
暴飲に歯止めをかける検診車
早川 英男
頭きを父は視界の中に置く
山岡 フミ
当選の遠磨ビールの泡が飛び
吉川 彰
甲子園砂を土産にする球児
米野 光雄
臍の緒を握り子離れ出来ぬ母
今井 七郎
点滴で体重の減る不信感
織田 福治
中流の下で空腹静かなり
織田 セツ
ポスト君喜怒哀楽を腹に詰め
後藤マサノ
今朝鳴いたガラスが運んで来た計
報
自分史を語る余裕の咳払い
佐藤トミノ
不機嫌な神様山車が舌下がり
高橋祐四雄
流行がぐるり回ってまた着れる
田中 成子
魂胆を秘めた話がごこちない
田村 恒夫
聖火消え戦火は尚も消え残る
中村 尚治